

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2016年3月10日

No.12

経営責任を明確にしベア実施を再考せよ！

～2016春闘 第4回交渉報告～

中央本部は本日9時30分より「第4回賃上げ交渉」を行い、会社は今春闘における現時点での考え方を以下の通り明らかにしました。

- ①コンテナの輸送が伸び悩んでおり、当初計画した1,125億という取扱収入の達成は難しい。現在1,116億円の必達目標を設定し努力している。
- ②平成28年度は鉄道事業部門の黒字化に向けて1,166億円の取扱収入を計画していたが、落ち着き見込みを9億円下げた1,157億円とする経営計画を策定する。一方で鉄道事業部門の黒字化という目標は変えない。差額の9億円は現時点見通しが立っていないがコスト面で努力していくこととなる。
- ③以上のことを踏まえ会社として検討した結果、定期昇給4号率は実施するが、ベアは実施できる状況にはない。諸要求やその他の事項は引き続き協議していく。

「9億円の埋め合わせがコスト削減では経営陣の決意も責任も見えない！会社の考えは受け入れられない！」

中央本部は会社の回答に対し、以下の通り強く指摘しました。

組合：事業計画とは別に経営収入目標を9億円下げた経営計画を策定し、それでも鉄道事業部門の黒字化は変えないということは、収入未達の責任を社員に転嫁するものである。この回答では経営陣の決意も責任も感じられない。収入未達は極めて経営陣の責任であり、ベースアップを実施できない理由にはならない。

会社：指摘の通り収入未達の責任は会社にあるが、来年度の計画達成に向けて社員にも一定程度の協力はお願いしたい。

組合：今年度の経常利益の見込みはどうか。

会社：今年度の経常利益は計画は45億円であるが現時点において計画を上回る見込みである。

組合：黒字決算を想定していながらベースアップを実施しないことは論外である。支払い能力は十分にある。ベースアップを実施すべきだ。

組合「今必要なのはベア実施による人への投資だ！」

組合：この間立ててきた事業計画は全て計画未達であるが、経営陣がいつどのように汗を流したのか全く見えない。

会社：経営計画策定は事業計画を断念したのではなく、目標達成に向けて現実的な判断をしたということである。

組合：会社の将来を悲観し人材の流出が止まらない。このことを会社は認識しているのか。

(次頁へ)

(前項より)

会社：この2年間で2%程度の離職率であり、これまでと比較し増加傾向にあることは認識している。賃金面を含めて理由は様々あると思うが、会社として企業の将来展望を明確に社員に伝えきれていないことが原因であると考えている。

組合：我々は汗をかき時に血を流す判断をした。今必要なのはこれ以上の人材流出を食い止めるための手立てであり、そのためにもベア実施という具体的な人への投資を行なわなければ大変な状況になる。

組合「16年連続ベアゼロは異常事態。その事実を認識すべき」

組合：職場と経営陣が違う方向を向き始めていることを認識するべきだ。期末手当は会社をして生活給とした1.5カ月を割り込み、16年連続ベアゼロである。この深刻な事態を会社は当然と考えていないか。第3回交渉でも述べたが、更なる我慢と努力を求めるといふことなのか。この2年間の経営陣の姿勢は内向きであり問題である。

会社：経営陣として計画達成に向けて努力する責任を持って努力していく。

組合「妨害勢力に対して毅然とした対応を」

組合：鉄道事業部門の黒字化を含めた計画達成に向けて、会社は誰と行っていくのか。

会社：JR貨物労組であり、その考えは変わっていない。

組合：一方で計画実現を妨害する勢力に対する会社のこれまでの対応は非常に弱い。計画を達成するのであれば会社は責任を持って毅然とした対応を行ない、計画達成への決意を見せるべきである。

会社：これまででも対応しているが、指摘については承る。

組合「経営陣の身を切っても社員に投資せよ！」

組合：ベアを実施できないとする会社の理由は到底受け入れられない。計画達成に向けてベースアップの実施をはじめとした要求を実施し、組合員のこの間の苦勞に報いること。原資が無いというのであれば経営陣が身を切っても原資を生み出し、人への投資を具体的に行なうべきである。再考し、ベースアップ実施の回答を示されたい。

会社：主張や指摘について引き続き社内で議論する。

中央本部は組合員の想いに応えるために「ベースアップ実施」にこだわるとともに本日の交渉においても「経営陣の覚悟と決意を組合員に見える形で示すこと」について、これまで交渉を積み上げてきました。

しかし、会社は本日の交渉において「人」への投資を行なう考えがないことを明らかにしました。このような会社の考え方は、職場で真面目に働く組合員のこれまでの努力や苦勞を無視するものであり絶対に認められません。

16春闘勝利に向けて、中央本部は職場で働く組合員の想いに応えるため、回答指定日に向けてその最先頭で奮闘していくことを決意し、第4回交渉報告とします。

次回交渉(回答指定日)は3月18日(金)です。

以上